

- ▶ 京都府の森林は、都市近郊に位置する南部地域、由良川・淀川源流域に位置する中部地域、丹波山地に広く覆われた中丹地域、日本海に面する丹後地域に分布しています。府土面積の74%（343千ha）が森林であり、このうち国有林は官行造林を含め8千haあります。
- ▶ 民有林では、スギ、ヒノキを中心とする人工林が127千haで、人工林率が38%と全国平均46%を下回っていますが、京都市・北桑田を中心とした中部地域では、磨丸太、桁丸太等の優良材生産を行っている府内で最も進んだ林業地帯であり、また、綾部・舞鶴・福知山を中心とした中丹地域は、戦後急速に拡大造林が進んだ地域で森林資源も充実しつつあり、中部地域に次ぐ新興林業地域となっています。

一方、国有林は、府内森林面積のわずか2%で面積的に占める割合は低いものの、奥地脊梁地帯から中山間、都市近郊に広く分布しており、それぞれの国有林のおかれた自然的・社会経済的特性を反映し、国土の保全、水源の涵養、保健・文化・教育的な利用の場として、森林の多面的機能の発揮に寄与しています。特に、京都市内に点在する国有林は、日本を代表する古都京都の主要な景勝地であるとともに神社仏閣の背景林として、多くの国民に親しまれており、歴史的経緯及び文化的背景を踏まえた森林景観の維持・管理を行っています。

地域林政連絡会議の場だけでなく、日頃から府庁、各広域振興局、森林技術センター、四隣整備センター等と京都大阪所の担当者間で、情報共有を図ることとしています。

- ▶ 国有林が所在する市町の地域課題や共通課題について、各種会議等の場を利用して幅広い情報収集を行っており、それぞれの市町が抱えている鳥獣被害対策等の地域課題について、民国が連携した取組を展開しています。



【京都林業のつどいで国有林の取組を紹介】



【大谷国有林で現地検討会を開催】



## 木材供給の安定化

【課題1】木材の安定供給（継続）

【取組状況】

- 原木需給情報の共有。

【成果と今後の課題】

- 今年度、生産事業により、国有林材を計画的、安定的な供給を実施。
- 民有林における木材の効率的、安定的な供給体制の構築に向けた取組と連携した国有林材の供給のあり方を検討する必要。

【課題2】由良川森林共同施業団地の質的充実（継続）

【取組状況】

- 古屋国有林で、林業専用道の開設。
- 同国有林で森林共同施業団地の協定関係者による現地検討会を行い、土場の共同利用を行った。

【成果と今後の課題】

- 事業の計画的な実行により、林業専用道505mを開設。
- 引き続き、施業の効率化、搬出コストの低減に取り組む。



【林業専用道開設の様子】



【土場の共同利用】

## 鳥獣被害の防除

【課題】野生鳥獣被害対策（継続）

【取組状況】

- 京都府、京都市、京都府猟友会と連携し、くくり罠等によるニホンシカ捕獲を実施。
- 嵐山国有林では、森林総合研究所関西支所、京都府立大学と連携し、囲い罠によるシカ捕獲を実施。

【成果と今後の課題】

- くくり罠等によりニホンシカ等を捕獲し、個体数管理に寄与。関係者による意見交換等を実施し、情報を共有。
- ニホンシカの個体数管理について、次年度も取組を継続することとし、関係機関等への連絡調整を行う。



【地元猟友会と囲い罠の稼働】



【嵐山国有林に設置した囲い罠】